



みのじ発展会



キャッチフレーズ

文化遺産を活かし、
後世に伝えるまち

事業実施の背景

かつては地域の小売・サービス業者で構成する協同組合で商店街活動を行ってきたが、事務処理が煩雑な上、地域に密着した十分な活動ができなかったことから解散し、平成6年度に、有志による発展会を発足させた。

発展会では旧西枇杷島町が商店街地区内に建設した「問屋記念館」()を活用する事業の試行錯誤を重ねながら、現在の「朝市」等に発展させている。

()問屋記念館：青物問屋を営んでいた山田九左衛門家を平成4年に移築復元した建物

事業の概要

みのじ朝市



<みのじ朝市の様子>

この地区には、江戸時代に開設された青物市場（日本三大市場の一つ）があり、昭和30年に名古屋市西区に移転するまでの約350年間、商人や農家の人らでにぎわっていた。このにぎわい復活のため、毎月第4日曜日の朝に「問屋記念館広場」で産地直送品や商店から持ち寄った商品を販売している。

清須市

「大根坊や」

尾張藩の地誌「尾張名所図会」の挿絵にある、大きな大根を右肩に担いで走る裸男をモチーフにしたキャラクターで、のぼりや会報などに活用している。

また、その店の業態に合わせた大根坊やのイラストを県立芸大生との共同作業で描き、まちの文化遺産を活かし後世に伝える工夫をしている。



<呉服店>



<文房具店>



<自動車整備業>



<大根坊や>

事業の効果

- ・ 「朝市」での会話がきっかけで商店街の顧客になった人もいて、気軽に会話を楽しみながら買い物ができるという朝市の効果を、最大限に発揮している。
- ・ 江戸時代から続く青物市場の歴史を活かした取り組みは、「問屋記念館」という舞台を得て、まちづくりに大きく貢献している。
- ・ 「朝市」を行うことによって、互いに疎遠だった店主やおかみさん同士の交流が生まれ、会員の結束が強まった。

事業の課題

- ・ 堤防工事による立ち退きのため商店数がさらに減少するため、一層の買い物客の誘致、会員数の維持に努めること。
- ・ 地域資源を活かした取り組みを行っているものの、まだ知名度が不足しているためマップの作成などPRに努めること。

その他の取り組み

みずとぴあ庄内（ ）朝市

東海豪雨の後完成した「みずとぴあ庄内」で朝市に参加し、地域交流を図っている。

()「みずとぴあ庄内」は堤防上の水防センターとして資材倉庫を備えているが、普段は地域活動の拠点として活用されている。

みのじ発展会

所在地：清須市（名鉄名古屋本線二ツ杵駅南）

問合せ先：会長 林 巖

電話（052）501-7264

